

痴漢電車でオナニーをしていた真紀の身体は、どんどん大きくなり始めた！

体格差

巨大化

巨大真紀ちゃん と 痴漢さんたち

～3つの巨大化物語・その1～

制作 / 著作
きゃらめる堂◇M-trinity

人間バイブ

痴漢

この巨体を慰めるためには、人間の身体を道具として使うしかない!?



この世界には、性的に興奮すると巨大化する女性が存在している。

……かもしれない？



金曜日の朝。

7時42分発の登り列車。
最後尾の8両目。

わたしがこの場所を知ったのは、
まったくの偶然だった。

(ああ……わたしったら
まだいじられ始めた
ばかりなのに)

(もうグミシヨリと
濡れてきちゃって……)

(感じちゃうっ……ダメッ!
はあああっ……。お願い……
あんまり焦らさないで)

(指で真紀まきのまんちゃん
かき回して……)



「ぐわっ

はあああ

あっ!!」



ぐわっ
ぐわっ

ぐわっ

ぐわっ
ぐわっ
ぐわっ

「おはあ……
だ、ダメッ
わたしったち

い……
イッちやう)

「うあ

ああああっ

……!!」

「か……身体が

大きくなっちゃった?」

「アッ……
なんで……」

「ヤダ……みんなが
見てる……
でもみんな
小さいよっ!!」



ガ—っ—

「すごいな、この乳。
両手でも抱えられならんから
デケエーよ！」
「……たまんね——」

はあっ……

「あひんっ……
む、胸も感じちゃう」

「あたし……
Hカップすおるも
恥ずかしく……」

「あひん……」
Hカップくらい
あったんだろ？」

「赤ん坊にでも
戻っちゃまった気分だよ
これじゃあ、まるで」

はっ
はっ

はっ
……

はっ
……

はっ
……





「うおおおおお
デカいぞっ!!」

×××××

×××××

×××××

「あーん……」
「あーん……」
「あーん……」

小娘の分際で
大人の男を玩具扱い
しやがって……」

「くっくっく……」

「お腹もお尻も脚も
おちんちんも……
たっぷりかわいらがって
あげちゃう♡」

「んんむ……んんむ
んんんんっふむむむ」

「の、飲み込まれちまうっ
助けてくれえええーっ!!」

「あーん……!!」

「あーん……!!」

「あーん……!!」



「だーめ!」

「命乞いしたって
ムダだよー!」……」

「でらうかよけらら
興奮してきちちゃら!」
♥

「大人しく服を
脱ぐの。
……ね?」



